

# ダイオーズ道内でビル清掃

人材不足深刻 FCで事業拡大図る

オフィス向けサービスのダイオーズ（東京）が道内でフランチャイズ（FC）方式によるビル清掃事業に乗り出す。再開発が加速する札幌では、ビル清掃を担う人材の不足が深刻化しており、中小規模のオフィスビルなどを対象に事業拡大を図る。

（権藤泉）



同社はオフィス向けサービスの「オーナー」によるレンタル事業で札幌に5300件の取引先がある。清掃サービスは従来首都圏のみで展開していたが、東日本エリアで首

都圏に次ぐ市場規模という札幌への進出を決めた。対象とする顧客は、大手企業が手掛ける大規模ビルではなく、エレベーター1基程度のオフィスやマンショングループ、クリニックなど。研修を受けたFCオーナーが自ら清掃を行う形で、希望の収入や時間帯に応じてダイオーズが顧客を紹介する。

都圏で働くオーナー約300人の平均月商は60万～80万円という。年内に札幌で5人のオーナー確保を目指す。

ビル清掃の国内市場規模

ダイオーズが札幌市内で開いたFCオーナー募集説明会

は4兆円。近年、中小ビルの入居企業が清掃業務を自前から外注に切り替えるなどニーズは増えている一方、担い手不足が続く。北海道ビルメンテナンス協会会長を務める北洋ビル管理（札幌）の岡田知己社長は、「人が財産。少しでも待遇を良くしたい」と話す。

だが、人材獲得競争が激しくなる中、業界の人手不足は深刻化。全国ビルメンテナント協会の昨年の調査では、道内清掃業者の79・6%がパートタイマーについて「不足」または「やや不足」と回答した。

ダイオーズが7日に札幌

市内で開いたオーナー募集説明会には、市内外から6人が参加。運送業で働く40代の男性は、「自分の裁量で働けて、安定した収入を得られる点が魅力」と話した。

同社では清掃サービスの顧客開拓や技術指導のため、新たに社員3人を常駐させる。坂田優浩執行役員は「顧客開拓を進めながら、オーナーを順次増やていきたい」と話している。